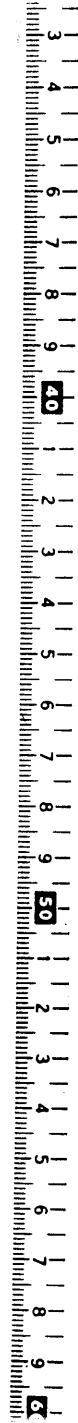


電子複写不可

昭和二十三年

歩兵才三十聯隊兵舎(沖繩)変^火際不^レ件

沖繩
334



七〇六

一 出火場所 所 沖繩縣宮郡早良町宇西原

二 出火及鎮火自時 出火 昭和二年三月八日十一時三十分

鎮火同

日十一時十分

三 狀況

昭和二年三月八日十一時三十分步兵第三十聯隊第四中隊第小隊ノ居住スル借上家屋ヲ利用セル急造兵舎ノ浴場ヨリ出火ス當時小隊ノ前夜來ノ作業ヨリ歸來シ休養シアリタル串田軍曹以下四名殘留スル外全員九五八高地陣ニ在リニ築城作業ニ邁進シアリ

出火ト共ニ串田軍曹以下四名大イニ消火ニ努メタルモ東北ノ風速約八米加之家屋ハ茅葺ニシテ連日ノ晴天ニ極度ニ乾燥シアリタル爲約三分ニシテ猛火ニ包マレ消火不能トナリタル兵舎物品ノ搬出並ニ延焼防止ニ努メ

一時五分頃中隊長次郎十一時五十分頃中隊長方相次郎

陸

軍

70183

CONFIDENTIAL

47066

現場ニ到着兵器物品搬出並ニ延焼防止ニ努力セシモ屋内ニ收容シ
 アリタル彈藥ノ一部ニ引火爆発シ危險ヲ極メ搬出作業困難ナリキ
 十二時五十五分頃五棟焼失セル後中間ニアリタル民家五棟ヲ隔テ約
 三百四十米風下ニアリタル第一機關銃中隊第一小隊宿舍セル
 茅葺屋根ニ延焼ス監視中ノ機關銃隊下士官以上三名懸命
 ナル消火作業モ及ハズ續イテ大隊長宿舍ニ延焼遂ニ合計七棟ヲ
 灰燼ニ歸シ十二時十分鎮火セリ

四 原因

ノ串田軍曹ノ指示ニ依リ横山上等兵ハ茅及松樹皮ヲ以テ風呂
 ノ焚付ケニ没頭中風呂桶ト側壁ノ中間下部ニアリタル煙道ノ割レ
 間ヨリノ火ノ粉飛散シ側壁ノ茅ニ引火セルモノト判断ス
 ス浴場側壁及屋根ノ茅ハ昨年十一月増築セルモノニシテ良ク枯
 レ且極メテ乾燥シアリタリ
 五人馬死傷ノ狀況

(納谷真・京東)

陸軍

別紙第一ノ如シ

六 罹災建物並物品ノ被害狀況及程度

別紙第二其ノ其ニ如シ

七 損害見積價格ノ概要

家屋	約三千元
被服	約六千二百三十三円
糧秣	約四百二十五円

八 延焼ノ理由

ノ焼失家屋ハ軒ヲ除ク外全部乾燥セル茅葺屋根ニテ別紙
 要圖ノ如ク接近建築サレアリ
 各隊共患者ノ外全方築木城作業ニ邁進シアリタル爲現
 場ニ兵員殆ド所在セス
 北ノ東ノ風風速約八米ニシテ火元家屋最モ風上ニ在リタリ
 消火器具及消防用水及消火用水外井戸ハ

一ヶア、リタルミ水量僅少ニシテ所要ニ充テズ
 彈藥爆發ニ依リ危險ナル爲消火作業ニ困難ヲ來セリ
 九 處置

(一) 聯隊長及大隊長ノ執リタル處置

- ノ全員ニ對シ再ニ斯ル事故ノ絶對無キ様嚴正注意ヲ喚起ス
 - ノ火氣使用ノ建物ハ居住用建物ト分離シ且茅葺ヲ止メ風
 向位置施設ニ注意セシム
 - ノ勤務員ノ割當及宿舍監視ノ服務ノ火災豫防及消火
 兵器資材ノ搬出等ニ關シ實情ニ即スル如ク規定ニ之ヲ放
 育徹底訓練ス
 - ノ兵器ノ陣地作業場ニ携行セシム
 - ノ彈藥爆發藥燈火等ノ取扱格納ニ十分注意セシム
 - ノ其他實情ニ應ジテ努メテ内務令ニ準據ニテ實施セシム
- (二) 師團長ノ執リタル處置

(納付員・東京)

陸軍

別紙ノ如ク失火防止ノ關スル訓示ヲ與フ
 復舊ノ要否

ノ現場北方ニ茅葺米地區ニ幕舎ヲ構築テ露營セリ近ク
 所在ノ物料ヲ以テ陣地附近ニ茅葺兵舎建築ノ豫定アリ
 ノ燒失家屋ニ對シテ相當ハ一々四百円ノ損害賠償ノ手續ヲ爲ス
 ノ主要兵器被服ニ關シテ詳細調査ノ上補給申請並修
 理ヲ爲ス

責任者ノ處分

前記ノ如ク狀況ニテ物資極メテ不足且愈々戦力充實ヲ
 要スル時部下ノ指導監督不十分ニ依リ兵器被服等ヲ燒
 失スル遺憾ノ極ニシテ關係者ハ夫々其ノ責ヲ悉シズ依テ
 左ノ通處斷ス

處長 師團長 期間 被 處 者
 師團長 師團長 陸軍 大 伍 富澤 國 松



②

RS 90466
Cincinnati Ohio
Bl. 28 5/16
OKINAWA 2 July

~~CONFIDENTIAL~~

師團長 重藤(加副) 晉	聯隊長 同	同 (加副) 晉	大隊長 同	同 (加副) 七日	中隊長 同	大隊長 同	中隊長 同	中隊長 同	搜查隊 分二附入
大隊長 陸軍大尉 山崎 武	中隊長 陸軍中尉 木島 亮	內務掛 陸軍中尉 野 文	內務長 陸軍中尉 田 松	兵	陸軍上士 横山 千				

